

(2) 優占樹種の植栽実験

① 基本的な考え方

「(1) 植生の再生に関する基本的な考え方の整理」において、植生の再生に関する基本的な考え方を整理し、自然林、河辺岩上植物群落、河畔林を人為により再生する目標植生に位置づけ、苗の植栽と事後の管理により適切に再生していくことを示した。

しかし、峡谷という特殊な立地における苗の植栽については、必ずしも豊富な知見がなく不明な点が多いため、実現に向けての可能性を事前に検証しておく必要がある。

この課題を解決するため、目標植生の優占樹種または構成種の植栽実験、並びに事後の経過のモニタリングを行った。

② 調査対象種

人為による目標植生の再生にあたっては、優占種となるものやその植生に特異的に出現する種を植栽し、その他の構成種については、後発的な飛来・定着を期待する考えとする。

調査対象種は、このような考え方に則り目標植生ごとに人為的に植栽することになる可能性の高いものであり、以下に示す5種とした。

表. 調査対象種

	目標植生	調査対象種
自然林	アカマツ-イブキシモツケ群落	アカマツ, イブキシモツケ
河辺岩上植物群落	アオヤギバナ-トダシハ群落	-*
	サツキ群集	-*
河畔林	カワラハンノキ群集	カワラハンノキ
	ネコヤナギ群集	ネコヤナギ
	カワヤナギ群落	カワヤナギ

※ 河辺岩上植物群落の導入種としては、サツキ、アオヤギバナがあげられるが、これらは、「(3) 貴重種の保全に係る実験」にて植栽の可能性を実験する。

③ 実験地

植生の再生は、現在の分布地での再生が基本となる。このため、調査対象種の植栽実験は、それぞれが構成種となる目標植生が現在分布している近傍とした。

④ 養生管理

苗の活着（植生の発達）を促す人為的なコントロールが重要と考え、灌水や除草などの養生管理を行い、生育経過のモニタリングを行った。




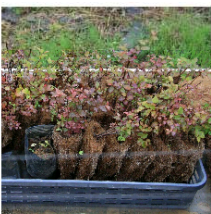











⑤ 植栽実験の実施状況

植栽実験の実施状況は次頁に示すとおりである。

表. 植栽実験の実施状況

区分	種名	植栽の時期		個体数
調査対象種	アカマツ	19年度	H19.12.7~8	20個体
	イブキシモツケ	19年度	H19.12.7~8	20個体
	カワラハンノキ	19年度	H19.11.30	20個体
	ネコヤナギ	19年度	H19.11.30	20個体
	カワヤナギ	19年度	H19.11.30	20個体

■ 優占樹種の植栽実験の実施状況

目標植生	区分	植栽実験対象種	植栽地	現地植栽	植栽個体の状況	備考
アカマツー イブキシモツケ群落	自然林	●アカマツ  	 岩角地	《H19. 12》 ・ 20 個体を岩角地に植栽 	《H20. 7. 22》 ・ 20 個体全ての生育を確認 《H20. 10. 23》 ・ 20 個体中 19 個体の生育を確認 《H21. 7. 17》 ・ 20 個体中 19 個体の生育を確認 《H21. 10. 23》 ・ 20 個体中 16 個体の生育を確認	8 割が生育
		●イブキシモツケ  	 岩角地	《H19. 12》 ・ 20 個体を岩角地に植栽 	《H20. 7. 22》 ・ 20 個体全ての生育を確認 《H20. 10. 23》 ・ 20 個体全ての生育を確認 《H21. 7. 17》 ・ 20 個体全ての生育を確認 《H21. 10. 23》 ・ 20 個体全ての生育を確認	全個体が生育
カワラハンノキ群落	河畔林	●カワラハンノキ  	 河川水際	《H19. 11》 ・ 20 個体を河川水際に植栽 	《H20. 7. 22》 ・ 20 個体全ての生育を確認 《H20. 10. 23》 ・ 20 個体中 19 個体の生育を確認 《H21. 7. 17》 ・ 20 個体中 18 個体の生育を確認 《H21. 10. 23》 ・ 20 個体中 16 個体の生育を確認	8 割が生育  《H21. 8 出水後》 20 個体中 18 個体の生育を確認（流失個体なし） →90%が生残
ネコヤナギ群落		●ネコヤナギ  	 河川水際	《H19. 11》 ・ 20 個体を河川水際に植栽 	《H20. 7. 22》 ・ 20 個体全ての生育を確認 《H20. 10. 22》 ・ 20 個体全ての生育を確認 《H21. 7. 17》 ・ 20 個体中 19 個体の生育を確認 《H21. 10. 23》 ・ 20 個体中 12 個体の生育を確認	6 割が生育  《H21. 8 出水後》 20 個体中 17 個体の生育を確認（2 個体が流失） →85%が生残
カワヤナギ群落		●カワヤナギ  	 河川水際	《H19. 11》 ・ 20 個体を河川水際に植栽 	《H20. 7. 22》 ・ 20 個体全ての生育を確認 《H20. 10. 22》 ・ 20 個体全ての生育を確認 《H21. 7. 17》 ・ 20 個体中 17 個体の生育を確認 《H21. 10. 23》 ・ 20 個体中 14 個体の生育を確認	7 割が生育  《H21. 8 出水後》 20 個体中 15 個体の生育を確認（2 個体が流失） →75%が生残

※ 目標植生のうちサツキ群落、アオヤギバナートダシバ群落（河辺岩上植物群落）の植栽種であるサツキ、アオヤギバナは「貴重種（植物）の栽培・植栽実験の実施状況」に経過を示す。

※ 実験中、巡回・管理を毎週 1 回程度行い、モニタリング（個体ごとの生死確認とサイズ計測）を年 2 回実施。